

教育の限界を知ること

孔子は「朽木彫るべからず」と言い、釈迦は「縁なき衆生は度し難し」と言った。孔子や釈迦のような最高の指導者でも、「やる気のない人間は教育できない」と慨嘆しているのである。

教育は治国平天下のための第一の要道であることは間違いない。しかし、「孔子や釈迦でも教育できない人間がいる」という現実を目をそむけてはならない。

教育が万能でないように、学校も万能ではない。東大を出てもだめな人間はだめ、学校など全く行かなくても優秀な人間は優秀になる。「蛙の子は蛙」という現実をよく見つめよく考えることが、日本の病弊を克服する唯一の方法だと思う。

私の研究所の幼児を見て感心するのだが、二、三歳にして、実に親によく似ていることである。人間のエンジンとも言うべき“意欲”は全く親の生き写しである。だから、自らも伸びようと努力している親の子の成長は、目を見張らせるものがある。「瓜の蔓には瓜」である。教育は教育者ではなくて、親の自覚に因るものだとつくづく思う。